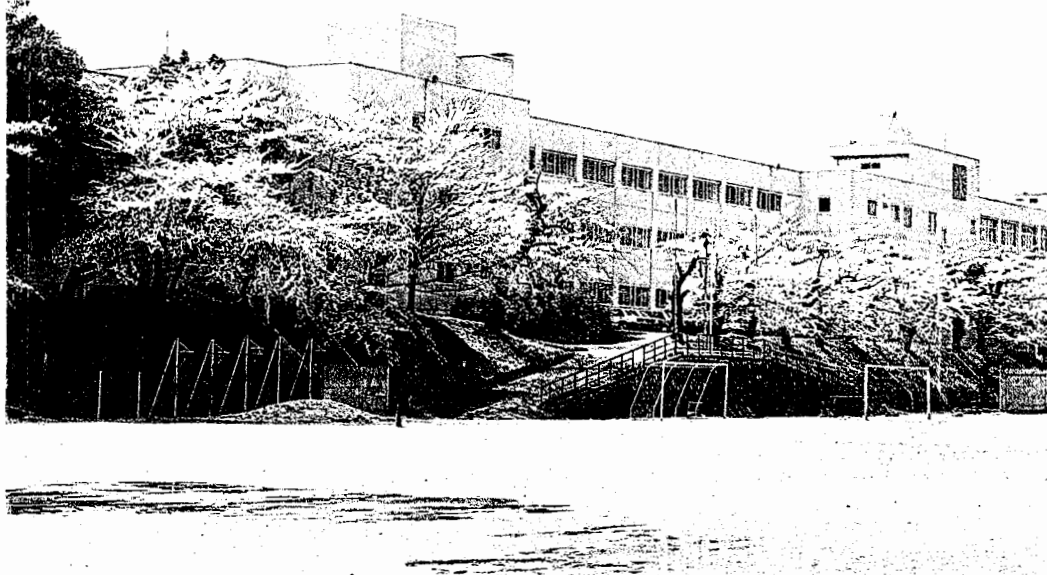


北社会ニュース 第22号

2006-4-19

発行者：鈴木壮夫

仙台気象台は先週13日、桜の開花を宣言。この写真の撮影時期は1992年頃。凱歌初節「暁かけて匂ふなる桜の花に武士が・・・」を彷彿させてくれる素晴らしい環境に感謝！



(1) 本日、第241回北社会

西澤潤一同窓会会長様に「学問が人を生かす」をテーマにご講演いただきます。ほぼ10年前、会長が上梓された「新学問のすすめ」を仙台の丸善で購入しました。“あとがき”に「今の日本人に欠けており、すぐにも補完しなければならないのは、力を合わせて自分達の社会を向上させてゆかなければならないとする社会の認識と、それに対する責任感だと考えています。余りにも近視眼的に自分のことだけしか考えないから、親だって子供だって信用できなくなってきた。お互い信頼できない社会は、もう社会ではありません。」と記されております。10年経って、どうでしょうか。私は今の日本社会に漠然とした欠落感が広がりつつあると思っています。今宵は「学問」の必要度を深く再認識するキッカケになればと希望しております。

(2) 来月以降の北社会講演予定

5月17日(水) 桜井良之助氏(高11回) 東京都議会議員

仮題「2016年オリンピック招致」

6月21日(水) 天江喜七郎氏(高14回) 外務省初の関西担当大使

7月19日(水) 和賀井敏夫氏(中42回) 学士院賞ご受賞記念

※6月と7月の両月は青山史朗先輩のご尽力によるものです※

8月 未定

9月21日(木) 渋谷正史氏(高15回) 東京大学医科学研究所・教授

日本癌学会「吉田富三賞」ご受賞記念

10月 北社会は休会にします。

10月18日(水) 東京同窓会(ホテルオークラ)にご参集下さい。

8月は楽しく気軽にやりたいと思っています。ご推薦お願いします。

(3) 二高に入学して半世紀、人生の原点になった昭和31年(1956年)上半期。
私は上杉山中学の卒業生です。一高に30人、二高に60人合格実績を積み上げてきた
北部の名門(?)中学でした。人試のことよりも、直前に芥川賞を受賞した石原慎太郎の
「太陽の季節」それも一障子を突き破る!一ことが腹を割った級友仲間の話題でした。
合格発表を川内の東体育館に見に行き、家に帰り、朝食を喰って、最初にやったことが、
一番町の高山書店に「太陽の季節」を買いに行ったことでした。今でも本棚にあります。
新潮社発行で定価250圓。当時のハードカバーの本です。

数日して白線の入った学生帽子を被った。数日間、短い時間だったが近所の人達一特に年下
の女子中学生一の視線とヒソヒソ話しが気になった。「二高に入ったんだ。ヘッー!」と
聞こえてきた。自分としては当然のことと思っていたが、世間は意外な出来事が身近におき
たとどうも思っているらしい。バカにすんじゃない!と思う反面、初めて世間の評価の存在
を意識させられた。

高校生活は実に楽しかった。期待以上の充実が二高にはあった。「上中」と「二高」の帽子
わずか数か月の違いなのに世間の見る目はガラリと変わった。要するに、人生初めて、
「できる人」群れ仲間入りを世間が認めてくれたのだ。浮ついた高揚とした気分の新学期
を過ごせた。応援団の練習も楽しかった。敗戦から十数年、仙台には依然として旧制高校の
バンカラが当時まだ残っていた。学生が尊敬され、大事にされていた時代だった。多くの
庶民がいつの日かこの学生さんが私達のために何かをしてくれると期待し、学生もその
期待を肩にしょって前向きに努力していた。「学都仙台」だったと思う。

5月の連休明け、日本登山隊がヒマラヤのマナスル峰(8125M)に世界で初めて登頂
に成功した。敗戦後、世界に「日本」を認知させた一つの出来事だった。登山隊長は楨有恒
氏(中11回)と大きく河北新報が報じた記事が記憶に残っている。脱線するが、この年
柔道の三船久藏氏(中3回)も来校され講演された。その年、1956年、三船先輩は73
才、楨先輩は62才、お二人とも若々しかった。そしてお二人とも「慶応」に進学されたこ
とを知った。築館中から慶応に進学した実父は当時56才、「慶応」が刻み込まれた年でも
あった。評定河原球場での対一高野球定期戦、千人余の応援団の一人に過ぎなかったが本当
に充実して楽しかった。「杜の都の早慶戦」と市内中が沸き上がるほどの戦いだった。

試合は2勝1敗の辛勝だった。外野席は女子校生で埋まった。裁判所裏の広瀬川に下りる急
な階段を女子校生が列をなして急いでいた。素朴で純な楽しみだったのかもしれない。
6月、高校総合体育大会、^初始まってから4年連続総合優勝していた二高は五連覇ならず、
三位に終わった。夕闇せまる県営総合陸上競技場で悔しさをにじませ、眼をあつくして、
凱歌をうたい、川内まで行進したというのが私にはこの記憶はない。

夏、一気に二高を「地方区」から「全国区」に格上げた出来事を硬式野球部が成し遂げ
てくれた。甲子園出場である。山形・福島・宮城の三県代表に勝ち抜いたのだ。

甲子園での初戦対慶応高校戦も雨で中断したが辛勝した。学校の講堂にTVセットが設置
され数百人が集まって応援した。

経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言、五味川純平「人間の条件」原田康子「挽歌」
がベストセラーに、映画ではJ・デイーン「理由なき反抗」、歌はE・プレスリー「ハート
ブレイクホテル」そして「ケ・セラ・セラ」。65年の人生でこの15才の半年の印象は
鮮明に記憶している。私的にも社会的にも人生の原点になった実りある時期でした。